

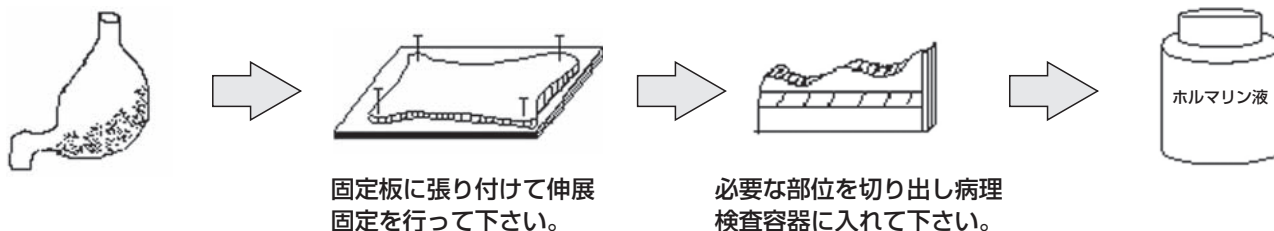
# 病理

## 固定の方法

### 検体採取容器

摘出した組織は速やかに10~20%ホルマリン液に浸し固定を行って下さい。血液や水分が多い場合はガーゼや吸湿紙で取ると、ホルマリンの劣化が防げます。大きな組織を固定する場合には、多量のホルマリン液が必要になりますが、局方ホルマリンを10倍に水で希釈して下さい。濃度は厳密さを要しませんが、10%以下にならないようにして下さい。

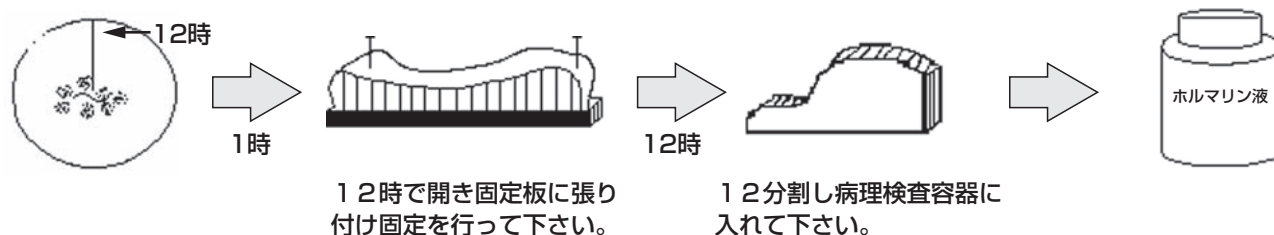
#### 胃、腸等の管腔臓器



#### 幅の厚い組織



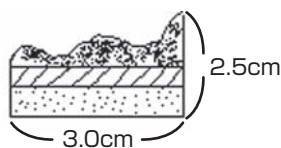
#### 子宮円錐切除



#### 標本作製できる最大限の大きさ

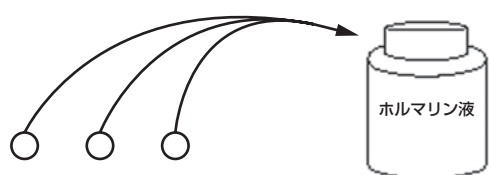
縦 2.5cm × 横 3.0cm

\*上記を越える大きさの場合、複数枚数になります。

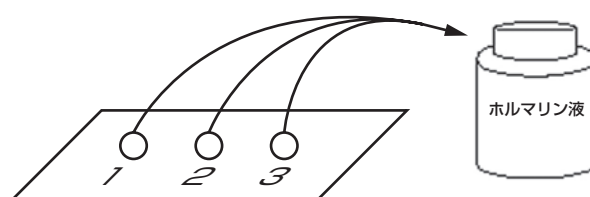


## 固定の方法

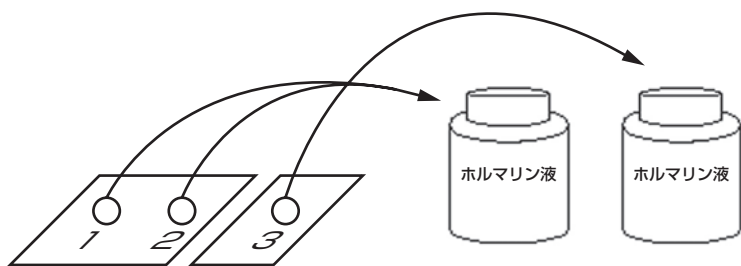
### 生検試料



採取後直ちに病理検査容器に入れて下さい。



または、濾紙に張り付け病理検査容器に入れて下さい。



2箇所以上の病変部位から採取された場合、容器は別々にして下さい。